

新 A WORD FROM ANOTHER WORLD



今月から3回ずつ交代で外国語指導助手 (ALT) のカリン・ストロムさん、ステーシー・ラジカワさん2人の英語コラムコーナーが始まりました。初回、カリンさんの話題は、感謝祭の習慣について。とても楽しそうな光景が思い浮かびます。

Seasons Change

Karin Strom

Once clothed in golden robes, the naked rice fields now don wispy columns of smoke. Seasons change. Once homogeneously green, the leaves now display a myriad of vibrant autumn colors. Seasons change. I once wore the nervous smile of an outsider, now I wear the sincere smile of a member. Seasons change.

The changing seasons evoke a feeling of nostalgia in me. The cool winds sweep my mind to fond memories of home. In November, Americans celebrate Thanksgiving. My relatives travel hundreds of miles to come to our home. Usually 25 to 30 people fill our house on this special day! It is a time for us to share a delicious turkey feast and celebrate our thankfulness for each other. My family has a tradition where all the grandchildren have a competition of making candy houses. We stick graham crackers onto the sides of milk cartons using frosting as glue. Then we decorate the houses with candy. It is very fun.

Seasons change. I am excited to see what this season brings! I am interested in learning about the seasonal traditions in Hokkaido. So please feel free to share your traditions with me.

季節は巡り

カリン ストロム

黄金色の衣装を身にまとっていた稲田が、今はそれも脱ぎ捨てて、かすかな煙をたなびかせています。季節が変わりました。緑一色だった木々の葉も、今では無数の鮮やかな秋色に染まっています。季節は巡る。私もよそ者のこぼれた笑顔から、地域住民の仲間として今は心からの笑顔でいます。

季節の変わり目は、郷愁の念を呼び起こします。涼しい風によって私の心は懐かしい思い出へと吹き寄せられます。11月には、アメリカでは感謝祭があります。この日は親戚が何百マイルもの距離をわが家目指してやってきます。そしてたいてい25人から30人もの人で家はいっぱいになります。おいしい七面鳥を食べ、お互いに対する感謝の気持ちを表します。わが家には、孫が全員参加するお菓子の家作りの年中行事があります。まず、アイシング(砂糖ごろも)をのり代わりにして牛乳パックにグラハムクラッカーを貼り付けます。そしてそれをキャンディー(※)で飾ります。とっても楽しいです。

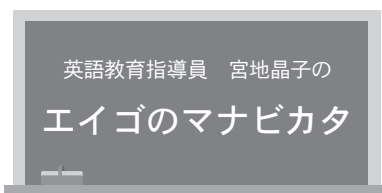
今年の秋はどんなことがあるのか楽しみです。北海道の季節ごとの伝統を学ぶことに興味があります。ぜひみなさんの伝統を私と分かち合ってください。(訳:宮地晶子)

【ちょっと豆知識】 宮地晶子

文中、「キャンディー」という言葉が出てきます。日本ではドロップのように固い飴を思い浮かべますが、英語圏の人にとっては、チョコ、グミ、風船ガム、ドリポップ(棒付きの飴)などもキャンディーです。カリンさんの家族がキャンディーハウスを作っている写真を見ましたが、飾りに使う飴やグミがカラフルで、とても楽しそうです。

この夏、久しぶりに里帰りしました。ビールで乾杯すると機嫌のよくなった母(73歳)が突然流ちょうに英語のスピーチを始めました。「おばあちゃんってすごい!」と孫も仰天。聞けば、女子高生のとき英語暗唱大会で優勝したとか。知らなかった。

母の影響を受けて英語が好きになったのか、と思いがたなることがなくもない。ということは、母のこの経験が私の英語のルーツということ。折しも秋の東中祭(中学の学校祭)で英語暗唱大会は何をやるのか、と悩んでいたところ。一度の暗唱大会がいつまでも心の中に大事な思い出とし



第80回 英語の種

に残っていることに、身が引き締まる思いでした。

たかが暗唱、されど暗唱。いいものを目指して、何度も発音やイントネーションを直す。そうして迎えた東中祭。発表は一瞬で終わるけれど、生徒の中に何かを残したい、という思いを込めます。毎年なのですが、発表が無事に終わるとほっとします。

東中祭といえば、卒業生もたくさん見にきます。声をかけてくれるのが何よりうれしい。みんな高校の授業の様子を教えてください。中学校で受けた少人数授業の恩恵を受けて、滑り出しは上々、という子供が多いのはうれしいことです。また、「英検受けたよ」「留学したい。どんな勉強をしたらいい?」などの報告や相談が年々増えているのもうれしいことです。私にできることはささやかですが、少しずつ英語の種をまいて、それが芽を出しつつあるのを感じます。